

旭川 虐待防止 市民講演会

「児童虐待防止のために私たちにできること」

～生物としてのヒト、そして歴史から、今を再考する～

藤女子大学 子ども教育学科 小山和利

1

子どもの年齢と虐待のリスク

～虐待死事件から見えること～

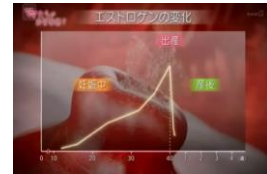
- 6歳以下の幼児のリスクが高い、特に「1歳未満の赤ん坊」
- 子どもが泣いて意思疎通ができない、子育てが一番大変な時
- 大人からのエネルギー的投資が最大の時期で、最も負担が大きい
- 家族からの援助が得られず、地域からの孤立している
- 母親、父親ともに若い
- パートナーが連れ子を受け入れず更には虐待する場合、女性がパートナーとの関係を非常に重視しているとき、母親はかなり残酷になり得る

何故、実母が虐待を黙認そして加担してしまうのか。

現代の育児事情はどうなっているのか

4

「ママたちが非常事態」 ヒトと共同養育



エストロゲンの減少

- 母さん困った！母さん困った！
- こんな苦勞、聞いてないよ！！
- 何の地獄かと思った
- 毎日、予想の下へ下へ行く生活



ママ友交流イベント

みんなと一緒に
子育てがしたい！！

5

共同養育の原型 アフリカ部族



人類は、沢山の子どもを産んで皆で育てることで
進化してきた
他人に子どもを預けるのは、生物の中でヒトだけ

現在は核家族で共同養育はできない
しかし体は太古からそれ程変化していない
不安孤独を強く感じるのは生理的必然

6

母性は共同体の営みの中で育まれる



女子大生に定期的に子どもを抱いたり世話をすることを続けると
脳の機能自体が変わる
子どもの泣き声を聞いた時のストレス反応が顕著に低下する

7

親による子殺しの生物学

動物の子育て

- 子育てをまったくしない
- 雌のみが子育てする
- 両親ともに子育てする
- 共同で養育する — ヒト



動物の世界で子殺しはしばしば見られるが、
親自身による子殺しはまれ

しかし、伝統的な人の社会では、親自身による子殺しが
飢餓食糧難などの物理的理由以外にも多数起きていたのは何故か

8

ヒトは共同によって子どもを育てるように進化してきた

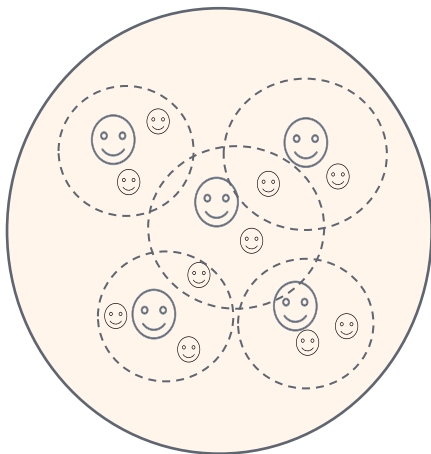
- ヒトは多産、共同養育を身につけた
- 育児不安や孤独は、共同養育を促す体からの信号と考えられる
- 自分の子以外の子にも愛情をそそぐことができる動物（可愛い面倒を見たい）
- この愛情は共同体の生活で育まれる
- 事実、ほとんどの義理関係はうまくいっている

しかし、共同養育の負の側面もあった

9

共同養育の明暗

近代以前の共同養育



ヒトは、
自分の子以外の子にも愛情をそそぐことができる動物
しかし、

「その子はまっとうな生まれ方をした子どもだ」

という認識を共同体が **共有** し、

共同で育てることを **了解** しなければ、

共同体は子育てを **支えない**

まっとうな生まれ方をしたと共同体が認めない子ども

・父親不明、未婚、不倫、他部族・・

支えがないと子どもを育てるといふ **見通し** が立たない

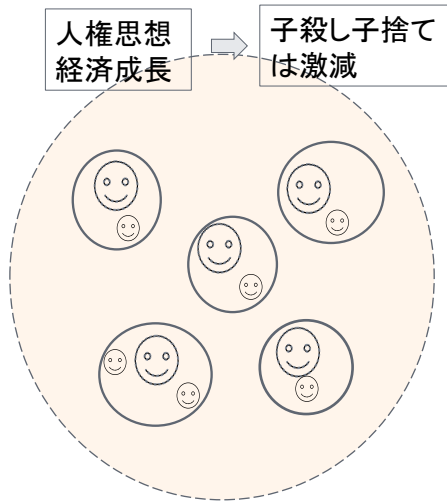
古い伝統社会では、

母親の子殺しや子捨てが多数見られ

共同体も子殺しは悪とは言え、**容認** してきた歴史がある

10

現在の子どもの養育



現在は共同体を頼らず
共有資源・環境(保育施設等)を活用できる

しかし現代でも **物理的** 環境に恵まれない人がいる
職業、金銭、家族

貨幣経済の世の中では、資源とは何よりもお金
お金と仕事がない状態は、
食べ物がなくて困っている狩猟採集民の状態と同じ

共有資源・環境を使えない家庭
・失業無職、貧困、若さ、未熟、メンタル不調

リスクアセスメントという社会的了解によって
実質的には、共同体共同養育から **排除** している？

過度な監視 と **非難** は排除にならないか？

11

昔からの嬰兒殺の3つの理由と現在

- ・「物理的な資源（食料）がない」 ⇒ 貨幣経済ではお金
 - ・「身体的に弱く生き残れそうにない」 ⇒ 医療、療育、福祉
 - ・「共同体が認めてくれそうにない」 ⇒ 保育所、託児、施設
- 十分？

現在の虐待死事件を見ると

コミュニティがあまり頼りにならず、個人が社会的に孤立
特に親類縁者が近くにいない貧困層のシングルによる子育て
社会的な支えも経済的支援もない（手続きができない）
そこに新しいパートナーが加わると、
虐待リスクの高い家庭が出来上がるという構造が見られる

現在も3つの理由がなくなっている訳ではない

12

ヒトにおける子育て

- 妊娠・出産すれば必ず「母性本能」が働いて赤ん坊を可愛がるということではない
- ヒトは特定の文化を持つ社会集団の中で暮らし、子育ては社会の多くの人々がかかわらねばできない(共同繁殖・共同養育)
- 人間の子どもは、母一人で育てることも、母と父だけで育てることもできない
- 共同体が認めることで愛情のスイッチが入り続ける
- 共同体の中で「この家族が正当だ」と認められない限り、子どもができても皆が支えてくれないので、子どもを可愛がる気持ちや育てようとする気持ちを失いやすい



- 物理的環境(資源)と社会的環境(みんなの協力が得られるか)の双方が整わなければ、子育てはできない

人間は非常に特殊な社会的動物

13

現代社会の厳しい子育て環境

個人主義とプライバシーの尊重

各家庭がかなり孤立する状況

自分から動かなかければ周囲からのサポートが見込めない状況



この子がいなければ新しい人生を歩めると思うと、
子どもを邪険にする行動が積み重なってしまうことになりかねない

14

まとめ

- 虐待は倫理的に許しがたい行為である
- 責められて然るべき行為である
- しかし、鬼のような母親父親と責めても、根本的な防止にはならない
- 太古の体を生きているヒトとして養育者を見守ることが必要である
- 共同養育（形がどうあれ）の支えが必要である
- そのための社会資源やルール、セイフティーネットワークを準備する
- 現代の乳幼児期における子育ての最大の社会資源は保育所幼稚園
- 育ちを地域で見守っていく

15

アナタが危ないのではなく

私達が危ない生き物なんだ

だから私達で支えあわなければならない

声高に糾弾することで、共同体の外に追いやっているのではないか

私達は本当は助けたくないのではないか

私達が虐待に追いやっているのではないか

必要なのは共同体の仲間という気持ちと  マーク

16